

# NKSJ

## HOLDINGS

株主の皆さまへ

# 第4期 株主通信

2014年3月期 (2013年4月1日～2014年3月31日)

### contents

- 1 … ごあいさつ
- 2 … グループ経営計画
- 5 … 連結財務ハイライト  
(NKSJホールディングス)
- 6 … 財務ハイライト  
(損保ジャパン、日本興亜損保、NKSJひまわり生命)
- 9 … NEWS FLASH
- 11 … CSRへの取組み
- 13 … 会社概要／株式の状況／役員／  
ホームページのご案内
- 14 … 株主メモ

## NKSJホールディングス株式会社

当社は、2014年9月1日付で、社名を「損保ジャパン  
日本興亜ホールディングス株式会社」に変更します。

証券コード：8630

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。  
ここに第4期株主通信をお届けいたします。  
ご高覧くださいますようお願い申し上げます。

2014年6月

NKSJホールディングス株式会社  
取締役社長  
(グループCEO) 櫻田 謙悟



[ グループ経営理念 ]

損保ジャパン日本興亜グループは、お客様の視点ですべての価値判断を行い、保険を基盤としてさらに幅広い事業活動を通じ、お客様の安心・安全・健康に資する最高品質のサービスをご提供し、社会に貢献します。  
※上記の記載は、2014年9月1日の「損保ジャパン日本興亜グループ」へのグループ名変更を前提としています。

[ グループ行動指針 ]

お客様に最高品質のサービスをご提供するために  
1. 一人ひとりがグループの代表であるとの自覚のもと、お客様の声に真摯に耳を傾け、行動することに努めます。  
2. 自ら考え、学び、常に高い目標に向かってチャレンジします。  
3. 「スピード」と「シンプルでわかりやすく」を重視します。  
4. 誠実さと高い倫理観をもって行動します。

[ 目指す企業グループ像 ]

真のサービス産業として、「お客様評価日本一」を原動力に、世界で伍していくグループを目指します。

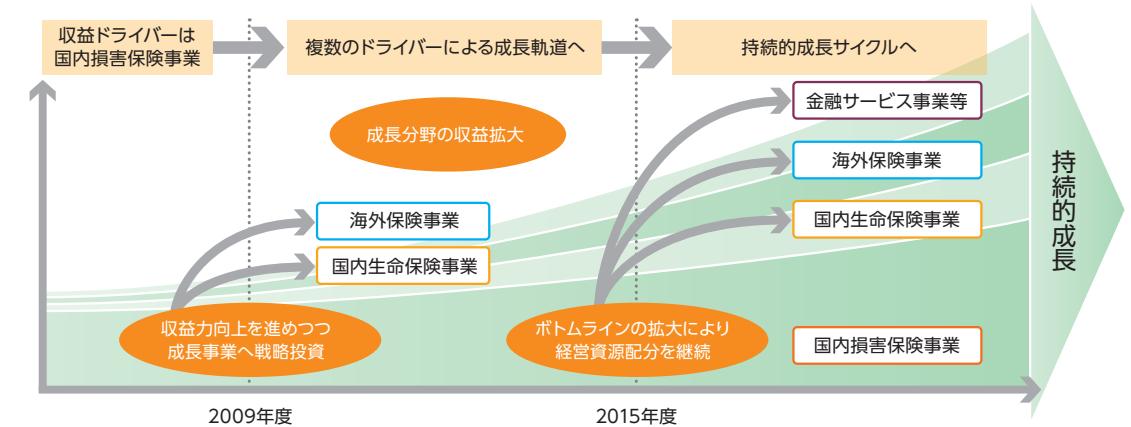
グループスローガン

First

社員一人ひとりがグループの代表であるとの自覚のもと、スピードとチャレンジを大切にし、  
真っ先に一步を踏み出す姿勢を表現したものです。  
経営理念等の実現に向け、グループ一丸となって取り組んでいきます。

基本戦略

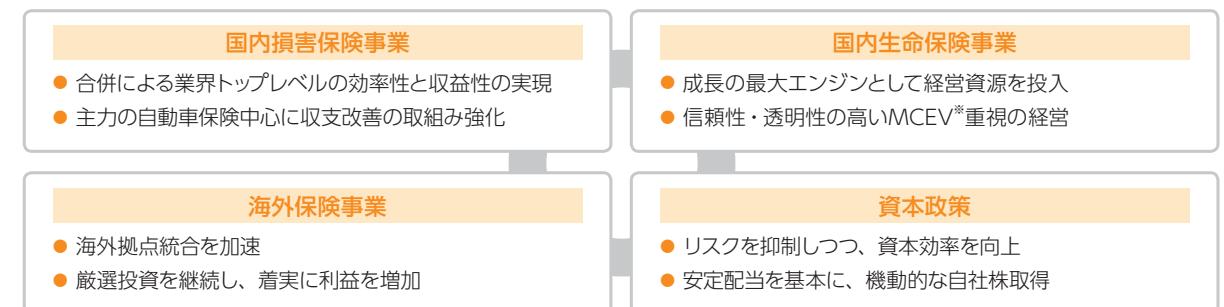
収益ドライバーである国内損害保険事業の収益力をより一層向上させ、経営資源を国内生命保険事業や海外保険事業などの成長分野へシフトさせることにより、バランスの良い事業ポートフォリオを構築します。さらに、複数の成長ドライバーにより拡大した収益を活用することにより、さらなる成長事業への投資を行い、グループを持続的成長サイクルに乗せていきます。



2012～2015年度の経営計画の要旨

- 損保ジャパン、日本興亜損保の合併効果を最大限発揮し、グループとして持続的成長サイクルに乗せていきます。
- 最適な事業ポートフォリオを構築し、純資産ベースでの企業価値向上を図ります。

戦略のポイント



※MCEVについては、8ページ参照。

## グループ経営数値目標 (修正利益ベース)

グループの経営数値目標である2015年度の修正連結利益1,800～2,100億円および修正連結ROE7%以上の達成に向けて取り組んでいます。

2015年度 (計画)	
修正連結利益	1,800 ～ 2,100億円
国内損害保険事業	700 ～ 800億円
国内生命保険事業	1,000 ～ 1,100億円
海外保険事業	140 ～ 200億円
金融サービス事業等	20 ～ 30億円
修正連結ROE	7%以上

(注) 修正利益の算出においては、国内損保会社の合併一時コスト等を特殊要因として控除しています。

修正利益の計算方法は以下のとおりです。

事業区分	修正利益計算上の事業の定義	修正利益の計算方法
国内損害保険事業	株式会社損害保険ジャパン、日本興亜損害保険株式会社、セゾン自動車火災保険株式会社、そんぽ24損害保険株式会社、の単体の合算	当期純利益 + 異常危険準備金繰入額 (税引後) + 価格変動準備金繰入額 (税引後) - 有価証券の売却損益・評価損 (税引後) - 特殊要因
国内生命保険事業	NKSJひまわり生命保険株式会社	当期EV (エンベディッド・バリュー) 増加額 - 増資等資本取引 - 金利等変動影響額
海外保険事業	海外保険子会社	当期純利益
金融サービス事業等	金融サービス事業、ヘルスケア事業など	当期純利益

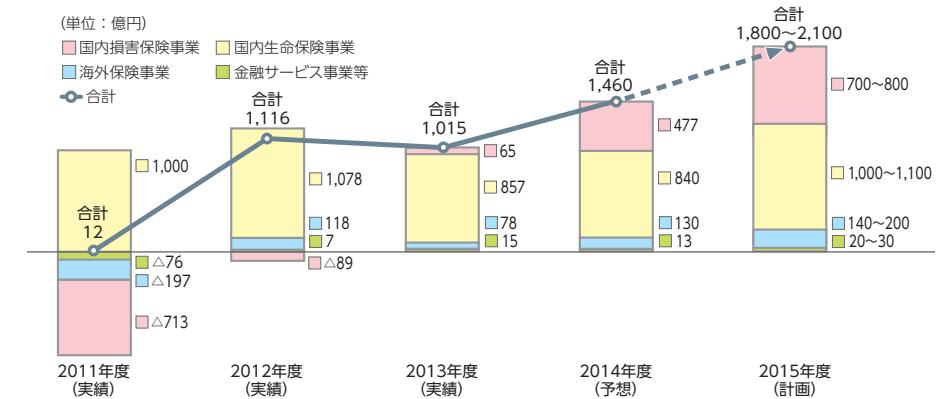
修正連結ROEの計算方法は以下のとおりです。

修正連結利益 ÷ [ 連結純資産 (除く生保子会社純資産) + 異常危険準備金 (税引後) + 価格変動準備金 (税引後) + 生保子会社EV ]

(注) 分母は、期首・期末の平均残高

## 経営計画の進捗状況

- 2013年度は、2014年2月に発生した大雪の影響により減益となりましたが、国内損害保険事業の収益性改善もあり、1,000億円を超える修正連結利益を確保しました。
- 2014年度は、収益改善が鮮明になる見込みであり、2015年度の目標達成の確度は高まりました。

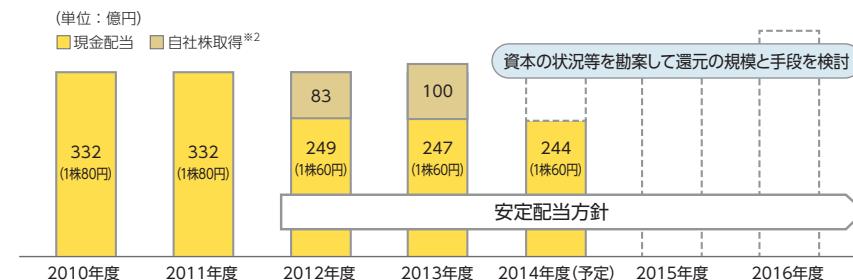


(注) 修正利益の算出においては、国内損保会社の合併一時コスト等を特殊要因として控除しています。

## 株主還元

- 2013年度業績に対する株主還元として、1株当たり60円配当 (中間・期末それぞれ30円) に加え、総額100億円の自社株取得を実施しました。
- 2014年度も安定配当方針を堅持しつつ、資本の状況等に応じて機動的な自社株取得についても検討していきます。
- 引き続き、総還元性向50%<sup>\*1</sup>を中期的な目標水準とします。

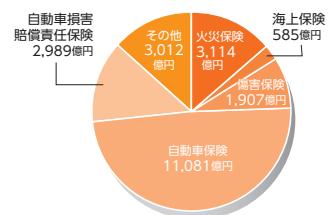
\*1. 対象となる利益は修正連結利益 (国内生保事業を除く)



\*2. 2012年度および2013年度の業績に対する自社株取得は、それぞれ2013年度および2014年度の実施となります。

	2013年3月期	2014年3月期
経常収益	28,432	30,083
保険引受収益	26,057	27,446
正味収入保険料	20,626	22,689
生命保険料	2,647	2,772
資産運用収益	2,237	2,489
その他経常収益	137	147
経常費用	27,384	28,959
保険引受費用	22,415	24,202
正味支払保険金	13,362	13,392
資産運用費用	582	206
営業費及び一般管理費	4,262	4,393
その他経常費用	123	156
経常利益	1,047	1,123
当期純利益	436	441
総資産	91,781	94,997
純資産	12,834	13,901

正味収入保険料の種目別内訳 (2014年3月期)



**正味収入保険料**

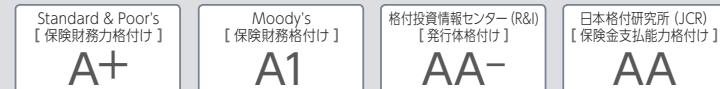
損保ジャパン、日本興亜損保がともに好調に推移し、海外も増収したことから、正味収入保険料は、前期に比べて2,063億円増加 (+10.0%) して2兆2,689億円となりました。

**経常利益・当期純利益**

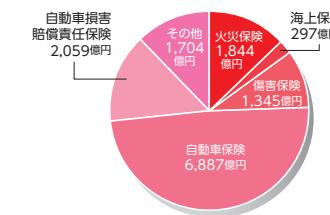
資産運用収益の増加などにより、経常利益は、前期に比べて76億円増加して1,123億円、当期純利益は、前期に比べて5億円増加して441億円となりました。

	2013年3月期	2014年3月期
正味収入保険料	13,273	14,138
(除く自賠責)	11,380	12,079
正味損害率	70.6%	64.6%
(除く自賠責)	67.2%	61.5%
正味事業費率	32.8%	31.4%
(除く自賠責)	34.4%	33.2%
コンバインドレシオ	103.4%	96.0%
(除く自賠責)	101.6%	94.7%
保険引受利益 (△は損失)	△ 257	△ 328
資産運用粗利益	1,020	1,122
経常利益	650	680
当期純利益	291	273
総資産	47,450	48,387
純資産	7,048	7,825
単体ソルベンシー・マージン比率 (2014年3月31日)		713.3%

格付け (2014年3月31日現在)



正味収入保険料の種目別内訳 (2014年3月期)



**正味収入保険料**

自動車保険や火災保険などが増収したことから、前期に比べて864億円増加 (+6.5%) して1兆4,138億円となりました。

**経常利益・当期純利益**

保険引受利益は、71億円減少して328億円の損失、資産運用粗利益は、101億円増加して1,122億円となりました。その結果、経常利益は、前期に比べて30億円増加して680億円、当期純利益は、前期に比べて17億円減少して273億円となりました。

正味収入保険料 (単位: 億円)



経常利益 (単位: 億円)



当期純利益 (単位: 億円)



正味収入保険料 (単位: 億円)



保険引受利益 (単位: 億円)



資産運用粗利益 (単位: 億円)



経常利益 (単位: 億円)



当期純利益 (単位: 億円)



**日本興亜損保 (単体)**

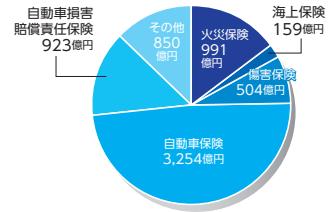
	2013年3月期	2014年3月期
正味収入保険料	6,388	6,683
(除く自賠責)	5,536	5,760
正味損害率	74.8%	67.8%
(除く自賠責)	72.2%	65.2%
正味事業費率	34.8%	34.0%
(除く自賠責)	37.0%	36.4%
コンバインドレシオ	109.7%	101.8%
(除く自賠責)	109.2%	101.5%
保険引受利益 (△は損失)	87	△ 297
資産運用粗利益	578	804
経常利益	645	496
当期純利益	333	221
総資産	22,931	22,602
純資産	4,401	4,507
単体ソルベンシー・マージン比率 (2014年3月31日)		653.0%

格付け (2014年3月31日現在)

Standard & Poor's  
【保険財務力格付け】 **A+**

格付投資情報センター (R&I)  
【発行体格付け】 **AA-**

正味収入保険料の種目別内訳 (2014年3月期)

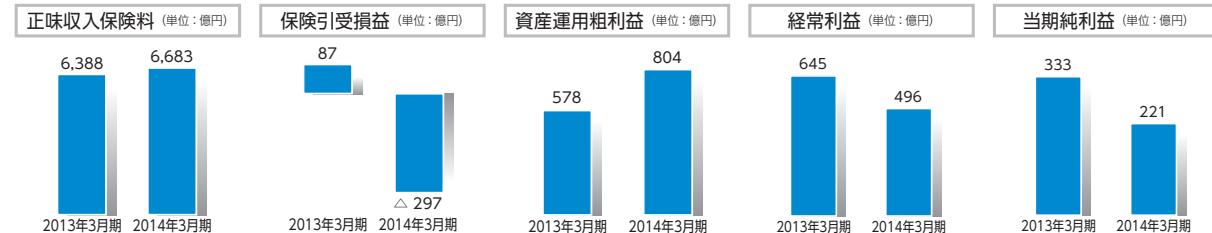


**正味収入保険料**

火災保険、自動車保険などが増収したことから、前期に比べて295億円増加(+4.6%)して6,683億円となりました。

**経常利益・当期純利益**

保険引受利益は、385億円減少して297億円の損失、資産運用粗利益は、226億円増加して804億円となりました。その結果、経常利益は、前期に比べて148億円減少して496億円、当期純利益は、前期に比べて111億円減少して221億円となりました。



**NKSJひまわり生命 (単体)**

	2013年3月期	2014年3月期
保有契約高	191,647	202,455
新契約高	30,433	26,350
保有契約年換算保険料	3,005	3,085
新契約年換算保険料	385	304
保険料等収入	3,707	3,728
保険金等支払金	1,722	1,740
基礎利益	121	160
経常利益	114	172
当期純利益	44	80
総資産	19,726	21,202
純資産	949	1,020
単体ソルベンシー・マージン比率 (2014年3月31日)		1,583.2%
MCEV (2014年3月31日)		7,503

格付け (2014年3月31日現在)

Standard & Poor's  
【保険財務力格付け】 **A+**

格付投資情報センター (R&I)  
【保険金支払能力格付け】 **AA-**

※保有契約高・新契約高・年換算保険料は、個人保険と個人年金保険の合計です。

**保険料等収入**

医療保険「健康のお守り」、収入保障保険「家族のお守り」、終身保険「一生のお守り」を中心に保有が増加したことから、前期に比べて21億円増加(+0.6%)して3,728億円となりました。

**経常利益・当期純利益**

保険料等収入が増加したことに加え、事業費が減少したことから、経常利益は、前期に比べて58億円増加して172億円、当期純利益は、前期に比べて36億円増加して80億円となりました。

**用語解説**

**ソルベンシー・マージン比率とは?**

保険会社の健全性を見るうえで重要な指標のひとつで、予測できない大災害が発生した場合に、保険金を支払う能力があるかどうかを判断する数値です。一般的に200%以上なら保険金支払能力は問題ないとされています。

**EV (エンベディッド・バリュー)、MCEVとは?**

損益計算書等の会計情報を補完するものとして、欧州やカナダでは生命保険会社の価値・業績を評価する有力な指標としてEV (エンベディッド・バリュー) が使用されています。当社が重視するMCEVは市場整合的エンベディッド・バリューの略称であり、EVを金融市場における金融商品の価格と整合的な評価となる手法を用い、対象事業に係るリスクについて十分に考慮のうえ、「企業の純資産価値」と「保有契約からもたらされる将来利益の現在価値」の合計として計算したものです。

# NEWSFLASH

2013年10月以降のグループの主な取組みをご紹介します。

## 「損保ジャパン日本興亜グループ」へ

2014年9月に、損保ジャパンと日本興亜損保が合併し「損害保険ジャパン日本興亜株式会社」が誕生します。

この合併にあわせグループブランドの強化によるグループの成長の加速を目的として、グループ名を「損保ジャパン日本興亜グループ」とし、当社は「損保ジャパン日本興亜ホールディングス株式会社」に、NKSJひまわり生命は「損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険株式会社」に商号変更します。

※ これらの合併および商号変更は、関係当局の認可等を前提としています。

### ● グループのシンボルマーク



絶対的な安定と調和を感じさせる赤の正円は、日本の象徴。明日の方向を指し示し牽引するプラチナの環は、損保ジャパン日本興亜グループが未来に向かって世界中の人々と取り結んでいく「新しい信頼」の象徴です。この正円と環をダイナミックに組み合わせることで、日本を代表するブランドとして「世界で伍していくグループ」を目指すという私たちのビジョンを表現しています。

### ● 一体化運営（「実質合併」体制）の加速

損保ジャパンおよび日本興亜損保では、これまでも役職員の相互兼務等による一体化運営（「実質合併」体制）を進めてきましたが、2014年4月からは、両社の組織を、課・支社レベルまで一体化させるとともに、課支社長も一本化させました。

早期に合併同等のシナジーを発揮し、スムーズに合併新会社に移行できるよう、計画的に取り組んでいます。

2014年 4月

## 南アフリカ共和国 ヨハネスブルグに駐在員事務所を開設

2014年4月、損保ジャパンは、南アフリカ共和国最大の都市であるヨハネスブルグに駐在員事務所を開設しました。南アフリカを含むサブサハラ・アフリカにおいては、急速な経済成長、人口増加等を背景に、保険市場についても今後の中長期的な成長が見込まれています。

損保ジャパンは、本事務所の開設により、サブサハラ・アフリカの保険市場の調査・研究や、日系企業へのサービス体制拡充を図ります。



事務所建物外観  
ネルソンマンデラスクエア

2014年 5月

## Canopus Group Limited 社の株式取得

当社は、損保ジャパンを通じ、Canopus Group Limited (以下「キャノピアス社」) の発行済株式総数の100%を取得しました。

英国ロイズ保険マーケットを中心にグローバルにスペシャルティ分野の保険引受事業を展開するキャノピアス・グループの持株会社であるキャノピアス社の買収を通じて、海外スペシャルティマーケットに本格参入し、海外保険事業の一層の拡大を実現していきます。



ロイズ本社ビル

2014年 1月

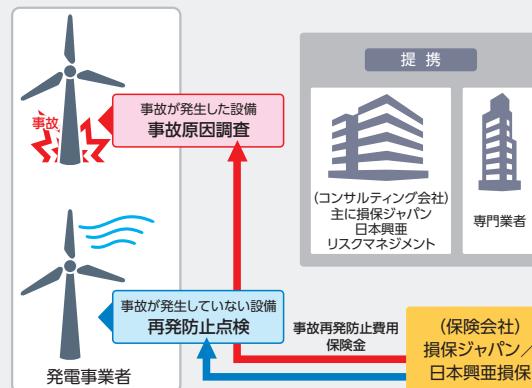
## 風力発電事業者向け火災保険の発売

損保ジャパンおよび日本興亜損保は、風力発電事業者を対象とした新たな火災保険の販売を開始しました。

風力発電設備はひとたび事故が発生すると損害額が高額となるほか、同種の事故が連続して発生する傾向があり、事故の原因調査や再発防止は風力発電事業経営における課題となっています。

本商品は、新たに開発した「事故再発防止費用特約」を付帯しており、事故の原因調査費用や、再発防止点検費用をお支払いすることで風力発電事業の安定経営を支援していきます。

※ 事故原因調査および再発防止点検は、主に損保ジャパン日本興亜リスクマネジメントと専門的知見をもつ複数の会社が提携して行います。



2013年 12月

## スマートフォン用アプリ「ほけんアプリ」の提供

損保ジャパンおよび日本興亜損保は、スマートフォン用アプリ「ほけんアプリ」を共同で開発し、2013年12月から無料で提供しています。

「ほけんアプリ」は「安心とつながろう～いつもともしもの家族の安心～」をコンセプトに、事故やトラブルなどの万が一のときに、代理店や保険会社に簡単に連絡できる機能や、ご家族の保険に関する情報をまとめて携帯できるアプリです。

今後も安心・満足につながる高品質な商品やサービスの提供を通じて、お客さまから選ばれる保険会社を目指します。



(イメージ)

2014年 5月

## 医療保険の新品「新・健康のお守り」の発売

NKSJひまわり生命は、累計120万件を販売した「医療保険(08)」をリニューアルし、保障内容の更なる充実と保険料の低廉化の両立を実現しました。新品「新・健康のお守り」は、販売開始からご好評をいただいています。



# CSRへの取組み (Corporate Social Responsibility/企業の社会的責任)

国内外のすべてのグループ会社が企業としての社会的責任を果たすために「グループCSRビジョン」などを策定しています。

## グループCSRビジョン

損保ジャパン日本興亜グループは、未来に向けた対話を通じてステークホルダーと積極的にかかわりあいながら、高い倫理観のもと国際的な行動規範を尊重し、気候変動や生物多様性などの環境問題、人権やダイバーシティ、地域社会への配慮などを自らの事業プロセスに積極的に組み込むとともに、社会に対して透明性の高い情報を積極的かつ公正に開示していきます。また、常に一歩先を見据えて、社会の安心・安全・健康に資する商品・サービスの提供をすることで、ソリューションプロバイダーとしてレジリエントで持続可能な社会の実現に貢献していきます。

※上記の記事は、2014年9月1日の「損保ジャパン日本興亜グループ」へのグループ名変更を前提としています。

## グループCSR6つの重点課題

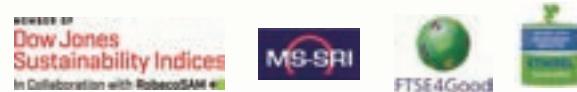
1	安心・安全・健康に資する商品・サービスの提供	世の中のさまざまなリスクに備え、安心・安全・健康に資する商品・サービスを提供していきます。
2	地球環境問題への対応	適応と緩和のアプローチで、気候変動のリスクに自ら対処するとともに、生物多様性などの地球環境問題の解決に向けた新しいソリューションを開発・提供していきます。
3	金融機能を活かした社会的課題の解決	ESG*課題を組み込んだ責任投資を推進するとともに、金融・保険機能を活用して社会的課題の解決に資する商品・サービスの開発に取り組みます。
4	NPOなどとの協働を通じた持続可能な社会づくりへの貢献	市民、行政、NPOなどとの地域の課題解決に向けた協働を通じ、持続可能な社会づくりに貢献していきます。
5	人権への配慮・人材育成とダイバーシティ推進	全てのステークホルダーの基本的な人権を尊重します。また、多様な人材がいきいきと働き、能力を發揮できる環境を整備することで、事業を通じて社会に貢献できる人材の育成に努めていきます。
6	透明性の高い情報開示	持続的な成長に資するガバナンス態勢を構築するとともに、非財務情報も含めた透明性の高い企業情報を積極的かつ公正に開示していきます。

※ESG: Environment, Social, Governance (環境、社会、ガバナンス)

## CSRに対する評価

### ○ SRIインデックス (社会的責任投資指数) などへの組入れ

当社は、右のSRIインデックスの組入銘柄となっています。  
(2014年4月1日現在)



### ○ CSRの取組みに対する評価・主な受賞

- ・ スイスの資産運用アドバイス会社RobecoSAM社「企業の持続可能性調査 銅賞」受賞
- ・ 環境省「第17回環境コミュニケーション大賞 環境報告書部門 優秀賞」受賞
- ・ 米国エシスフィア・インスティテュート社「世界で最も倫理的な企業2014」に選出 (損保ジャパン)
- ・ 「平成25年度 地球温暖化防止活動環境大臣表彰 環境大臣賞」受賞 (日本興亜損保)



## SAVE JAPAN プロジェクト ～自動車保険を通じ、47都道府県で希少生物種を守る取組み～

気候変動への対応や生物多様性保全など地球環境問題の解決に積極的に取り組んでいます。

### ○ 3年間で18,000名超の市民の皆さまがご参加

損保ジャパンおよび日本興亜損保では、主力商品である自動車保険のWeb型約款などの推進と連動し、日本NPOセンターや100を超えるNPO・環境団体と協働で、市民の皆さまが気軽に参加できる生物多様性の保全イベントを開催し、「いきものが住みやすい環境づくり」を目指す取組みを行っています。2011年度の開始から3年間で累計325回のイベントを開催し、18,000名を超える市民の皆さまにご参加いただきました。



静岡県「里山の生き物たちと触れ合おう!」



ダイアログの様子



損保ジャパン会長佐藤の挨拶

### ○ 3年間の成果を振り返るダイアログを開催

2014年1月に、これまでの3年間の成果を振り返る「みんなで語ろう! これからの企業とNPOの協働のカタチ ～SAVE JAPAN プロジェクト3年間のあゆみから～」を損保ジャパン本社ビルで開催し、NPOや企業のCSR担当者などを中心に約150名が参加しました。2013年度からはプロジェクトの社会的価値を定量的に評価する手法を取り入れるなど、「SAVE JAPAN プロジェクト」の取組みを深化させています。

▶ 取組報告や参加者募集などの詳細は「SAVE JAPAN プロジェクト」専用ウェブサイトをご覧ください。 <http://savejapan-pj.net/>

## NKSJボランティアデー ～グループ全体での取組み～

「NPOなどとの協働を通じた持続可能な社会づくりへの貢献」を目指し、よりよい地域づくりに貢献しています。

### ○ 2013年度で3回目の開催、国内外で約300件、約10,000名のグループ社員が参加

2011年度から毎年、グループ社員の社会貢献マインド向上や被災地への継続的支援などを目的とした「NKSJボランティアデー」を実施し、2013年度は3回目を迎えました。「NKSJボランティアデー」は、国内外で、東日本大震災復興支援や福祉、環境などさまざまな取組みを行っています。2013年度は10月から2月までの5か月で国内外で約300件のボランティア活動が行われ、約10,000名のグループ社員が参加しました。



視覚障がい理解を深める体験型セミナー

認知症サポーター養成講座

病院の若い患者さんへキッズ・ドールを贈る活動

チャリティランニングへ参加 (ベトナム)

▶▶ 上記を含む取組みの詳細は、CSRコミュニケーションレポートをご覧ください。 <http://www.nksj-hd.com/csr/communications/>

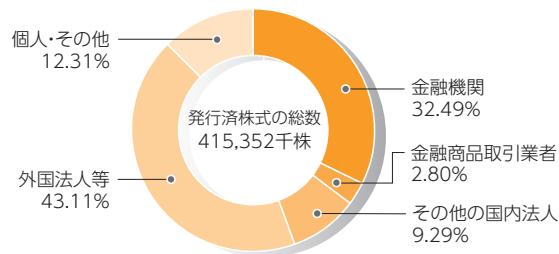
## ■ 会社概要 (2014年3月31日現在)

会社名 …… NKSJホールディングス株式会社\*  
 (英文表記: NKSJ Holdings, Inc.)  
 本店所在地 …… 東京都新宿区西新宿一丁目26番1号  
 設立日 …… 2010年4月1日  
 資本金 …… 1,000億円  
 従業員数 …… 35,904名 (連結)  
 事業内容 …… 損害保険会社、生命保険会社その他の  
 保険業法の規定により子会社等とした会  
 社の経営管理およびこれに附帯する業務

※2014年9月1日より「損保ジャパン日本興亜ホールディングス株式会社」  
 (英文表記: Sompo Japan Nipponkoa Holdings, Inc.)

## ■ 株式の状況 (2014年3月31日現在)

発行可能株式総数 …… 1,200,000,000 株  
 発行済株式の総数 …… 415,352,294 株  
 株主数 …… 48,434 名  
 所有者別株式分布状況



## ■ 役員 (2014年6月23日現在)

代表取締役会長兼執行役員	二宮 雅也
代表取締役社長兼執行役員 (グループCEO)	櫻田 謙悟
代表取締役副社長兼執行役員	辻 伸治
取締役常務執行役員	竹本 尚一朗
取締役執行役員	西澤 敬二
取締役執行役員	江原 茂
取締役執行役員	磯谷 隆也
取締役	熊野御堂 厚
取締役(社外取締役)	野原 佐和子
取締役(社外取締役)	遠藤 功
取締役(社外取締役)	村田 珠美
取締役(社外取締役)	スコット・トレバー・デヴィス
執行役員	徳岡 宏行
執行役員	細井 寿人
執行役員	田中 順一
執行役員	小嶋 信弘
常勤監査役	吉満 英一
常勤監査役	高田 俊之
監査役(社外監査役)	椿 慎美
監査役(社外監査役)	笠間 治雄
監査役(社外監査役)	柳 田 直樹

## ■ ホームページのご案内

ホームページを通じて、個人投資家の皆さまに当社をより良く  
 ご理解いただくための情報をお届けしています。  
 (<http://www.nksj-hd.com/>)\*

※2014年9月1日より <http://www.sompo-hd.com/>に変更します。



事業年度 …… 毎年4月1日から翌年3月31日まで

期末配当および議決権の基準日 …… 3月31日 (中間配当を実施する場合の基準日は9月30日)

単元株式数 …… 100株

公告の方法 …… 電子公告により行います。(http://www.nksj-hd.com/)\*  
 ただし、事故その他やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることが  
 できないときは、日本経済新聞に掲載して行います。  
 ※2014年9月1日より <http://www.sompo-hd.com/>に変更します。

上場証券取引所 …… 東京証券取引所 (市場第一部)

株主名簿管理人 …… 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
 みずほ信託銀行株式会社

郵便物送付先および  
 各種お問い合わせ先 …… 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部  
 電話: 0120-288-324 (通話料無料)

特別口座の口座管理機関 …… みずほ信託銀行株式会社および三菱UFJ信託銀行株式会社  
 ※お問い合わせ先等につきましては、裏表紙をご覧ください。

## ■ 株式に関する各種手続き

- 受取がお済みでない配当金のお受け取り、支払明細等の発行については、株主名簿管理人にお問い合わせください。なお、配当金のお支払期間は支払開始から3年間となっておりますので、お早目にご請求ください。
- 住所変更、配当金受領方法の指定および単元未満株式の買取・買増などの各種手続きについては、証券会社等に口座をお持ちの株主さまはお取引のある証券会社等にお問い合わせください。なお、証券会社等に口座がなく、特別口座で管理されている株主さまは、裏表紙「特別口座の口座管理機関」にお問い合わせください。

## ■ 単元未満株式の買取・買増制度のご案内

単元未満株式については、買取制度または買増制度をご利用いただくことができます。

### ● 単元未満株式の買取制度を利用

単元未満株式を当社に対して市場価格で売却する制度です。

具体例 50株をお持ちの株主さま



### ● 単元未満株式の買増制度を利用

単元未満株式を当社から市場価格で買い増して、単元株式とする制度です。

具体例 50株をお持ちの株主さま



## ■ 特別口座の口座管理機関

特別口座に記録されている株式は「単元未満株式の買取・買増」を除いて売買ができませんので、お早めに証券会社に株主さまご本人名義の口座を開設していただき、当該口座へ振替手続きを実施していただきますようお願いいたします。

詳細につきましては、以下表の「特別口座の口座管理機関」までお問い合わせください。

	[ 旧 損保ジャパンの株主さま ]	[ 旧 日本興亜損保の株主さま ]
特別口座の口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
郵便物送付先 および お問い合わせ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-288-324 (通話料無料)	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-232-711 (通話料無料)

NKSJホールディングス株式会社

〒160-8338 東京都新宿区西新宿一丁目26番1号  
TEL. 03-3349-3000 (代表)



この株主通信は環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。